

銅輸  
出は  
国内  
需低  
速貿易  
景況  
でス  
クラ  
ップ  
が増  
加

## 住宅着工、自動車販売ともに振るわず

橋本健一郎氏リポート①

### ■国際概況

六月前半は、米国の対メキシコ制裁関税措置発表と中国製造業購買担当者指数(PMI)の悪化など貿易摩擦の拡大と景気減速懸念などのマイナス材料もあったが、中国政府高官の米中交渉に前向きな発言などを受け、貿易摩擦への懸念が後退した。米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長が貿易摩擦の激化に懸念を示し「景気拡大を持続させるため適切に行動する」と述べたこと、チリの世界最大級の生産業者、コデルコ社が減産発表したを好感しLME銅相場はUP、六月十五日時点で五、七八八ドル(セツル)と月初価格より七、五ドルUPの前半締めとなった。

後半は米連邦準備理事会(FRB)議長の政権からの独立性強調声明で、大幅利下げが否定されたことイラン情勢緊迫化に圧迫などのマイナス材料もあったが、米の利下観測、米中首脳会談開催決定とカップパの供給混乱による上げ、チリ・チュキカマタ銅山の大規模なストライキを受けて、供給が不足するとの見方を好感しLME銅相場はUP、七月二日現在、後半スタート価格から二四三ドルUPの五、九九九ドル。銅建値は一万円高の七〇万円スタート。

### ■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)  
一一〇・三六→一〇八・七二(円)。

### ◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、四月の自動車生産台数は前年比四・七%増の八一万四、三五一台であった。

輸出(五月)は三五万四、九八四台で前年同月比二・九%増。

### ◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、六月の自動車販売台数(軽除く)は前年比〇・九%減の二九万〇、二五台。

### ◆新設住宅着工件数推移

令和元年五月の住宅着工戸数は七万二、五八一戸で、前年同月比で八・七%減

となった。

また、季節調整済年率換算値では九〇・〇万戸(前月比三・三%減)となった。

### ◆貿易関連指標

#### 輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が二二%減の四万一、一六四t、スクラップが一三・一%増の三万三、五四〇t。

#### 輸入

輸入は電気銅が前年比一四八・五%増の一、四九〇t、スクラップ三%増の一、二〇九三t。

### ■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比八・四%減の六万二、二八六t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比三・三%増の五万六、八〇〇tであった。

### ■国内概況まとめ

#### 〔自動車〕

日本自動車工業会によると四月の自動車生産台数は前年比四七%増の八一万四、三五一台であった。

輸出(五月)は三五万四、九八四台で前年同月比二・九%増。

#### 〔販売〕

日本自動車販売協会連合会によると、六月の自動車販売台数(軽除く)は前年比〇・九%減の二九万〇、二五台。

このうち、乗用車一・八%減、貨物四・三%増、バス二〇・八%増。

#### 〔住宅〕

令和元年五月の住宅着工戸数は七万二、五八一戸で、前年同月比で八・七%減となった。また、季節調整済年率換算値では九〇・〇万戸(前月比三・三%減)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で二カ月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家は増、貸家及び分譲住宅は減となった。

引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

(六面へ続く)

## LME銅・米中貿易戦争の動向などが左右か 為替予想 (四面より続く)

### 【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比八・四％減の六万二、二八六tと六カ月連続減少。伸銅品の一四品種のうち、前年同月比プラスは、銅板の一品種のみだった。伸銅品の需要全体に勢いが無い。

内需は五万二、五九九tで七％減と五カ月連続マイナス、輸出は九、六八七tで一五・三％減と七カ月連続マイナス。

品種別では、銅条は一万九、八一七tで九・六％減と四カ月連続マイナス、黄銅棒は一万四、六四一tで八％減と五カ月連続マイナス。

### 【電線】

前年比三・三％増の五万六、八〇〇t。このうち、国内は六・一％増、輸出が五二％減。

### 【輸出】

電気銅輸出が二二％減の四万二、二六四t、スクラップが三二・二％増の三万三、五四〇t。

### 【輸入】

電気銅が一四八・五％増の一、四九〇t、スクラップが三％増の二万二、〇九三t。

### 【見通し】

・自動車は生産が四・七％増。国内販売台数が前年比〇・九％減。生産は再びプラス。生産はプラスだが販売はマイナス。今後に注視。

・伸銅品生産は前年比八・四％減の六万二、二八六tと六カ月連続減少。今後マイナスが続くか注視。

・電線出荷は前年比三・三％増の五万六、八〇〇t。このうち、国内は六・一％増、輸出が五二％減。

・銅輸出は相場下落に伴い電気銅の輸出は減少、スクラップは内需低迷から増加。

・銅輸入は割安感から増加。

### 【スクラップ景況予想】

流通在庫はここ最近の相場下落から塩漬玉があり、銅建値が七〇万円程度になれば市中に出てくるのではないか。

需要面に関しては足元の生産状況が徐々に悪化しており減少。

G20での米中貿易戦争の一時休戦を受けて相場は上昇したが、メーカーの購入意欲は低

くスクラップ販売は当面厳しい。

### 【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争の動向、米朝会談後の動向に左右される。

米中貿易に関しては予想どおりG20で一旦休戦になったため、一時的には好材料になるのでは？（先行きはまた課税戦争なることは間違いないが）

米朝会談に関しても、金総書記との面談ができたことは一時的にはプラスで好材料となる（核放棄するとは思えず、こちらも長期的には変化なし）。

これらを踏まえた七月の銅価格は五、八〇〇〜六、二〇〇ドル（セツル）との予想。ドル円値は一〇七円〜一一〇円（TTM）台を予測。

銅建値に関しては六七〇〜七三〇円程度と予測している。

